

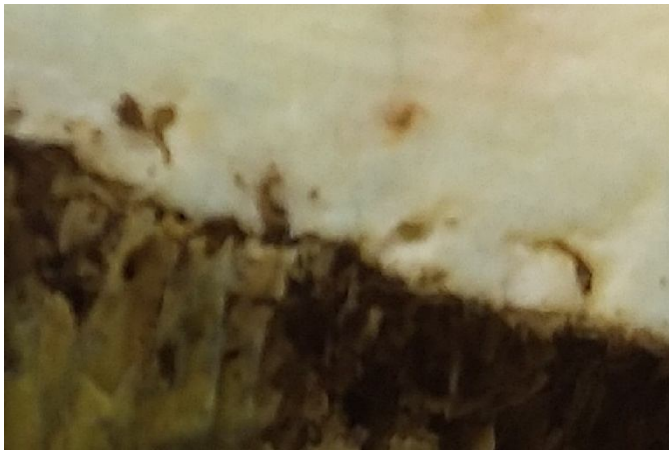
「アマタケというキノコ(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

アマタケの仲間(ヌメリイグチ科など)の特徴は、「毒キノコが少ない」ということである。少なくとも致命的なキノコは一つもなく、裏側が網目のキノコは比較的安全といえる。今回採集した「アマタケ」も食用になる。ハンペンのような食感で、なかなかおいしい種類である。



しかし、このような肉質のキノコには、必ずと言ってよいほど虫がついている。写真は傘を縦に切ったところだが、明らかに「虫食い穴」がたくさん見られた。



実際にその犯人がいた。キノコを「主食」にする昆虫は、「キノコムシ」の幼虫・成虫と「キノコバエ」の幼虫である。写真はキノコバエの幼虫、つまり「蛆(ウジ)」ということになる。

アマタケの仲間のもう一つの面白い特徴は、「変色」である。傷つけたり、内部が空気に触れると、見る見る色が変わる種類が多い。



これはアマタケの傘の裏側(管孔)を、割りばしで「A」の文字を書いたところである。わずか数秒で、黄色から藍色に変化する。細胞内部が空気(恐らくは酸素)に触れることで変色するのだろう。



変色は、子実体内部でも実験できる。傘と茎を同時にカッターで切断すると、これも数秒~数十秒でみるみる藍色に染まっていくので、実に面白い。

実はこのアマタケの変色は「小結」ぐらいで、もっとすごい横網級のキノコがある。その名も「イロガワリ」やはりアマタケの仲間だ。切断直後は鮮やかな山吹色(濃い黄色)なのだが、数秒で真っ青になる。この秋是非探して、動画で撮影したいと思っている。